国際ロータリー第2750地区 多摩南グループ 東京飛火野ロータリークラブ
Tokyo Tobihino Rotary Club

会長 結城 祐純

幹事 谷　和彦

会長テーマ　クラブを再加速する

2023-24 Weekly Report vol.36-14

世界に希望を生み出そう

2023年10月10日（火）第1648回 日野RC合同献血例会 於:高幡不動尊 駐車場

早朝から両クラブのメンバーが集合、準備をして会場を設営、恒例の献血例会に備えました。日赤の担当者もお見えになり、受付内容等を点検し開始まで体制を全員で整えました。今回も午前と午後の部に分け来場者には粗品を進呈しました。

コロナ禍で献血は厳しい状況に追い込まれて、国内では献血者も減り、献血事業は大変厳しい状況です。

そうした中、献血例会は社会奉仕活動として、両クラブでも特別な社会奉仕プログラムとして今日に至っています。

■出席報告

報告内容後記

■献血実施報告

献血申込者数 ４８名　献血者数 ４０名　献血できなかった人数 ８名

200ｍｌ献血 ２名 400ｍｌ献血３８名

◆献血事業について◆

今更でもありませんが、献血事業の原点について再確認し取り組みたいと思います。「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤（人の血液又は血液から得られた物を有効成分とする医薬品。輸血用血液製剤と血漿分画製剤とがある。）として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいいます。わが国では、病気やけがの治療のため、輸血や血液製剤を必要とする人たちが数多くいます。この血液製剤は、健康な方々から自発的に無償で血液を提供いただく「献血」により作られています。わが国の血液事業は、「献血」によって支えられており、血液を必要とする多くの患者さんが、日々救われています。日本赤十字社は、1952年（昭和27年）4月に日本赤十字社中央病院（現日本赤十字社医療センター）に日本赤十字社血液銀行東京業務所を開設し、血液事業を開始しました。その後も、受入れ施設を整備するとともに献血の周知、普及に努めてきました。

今日、血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社を始め、血液製剤の製造・販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力してくださる企業やボランティア、国民の皆さま。このように多くの人々の協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんな一人ひとりの思いがこれからの血液事業を発展させていくのです。

◆献血の現状◆

日本では法律によって売血が禁止されている。国内で必要とされる血液は生血であろうと、血漿分画製剤であろうと、基本的には国内で賄うことが「血液の安全保障」という立場を堅持するのが日本政府である。とはいえ、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、献血協力者の確保が難しい状況になり、とくに若年層の献血離れ現象も起こりつつあるため、厚労省では日本赤十字社と連携し、さまざまな工夫を余儀なくされるようになった。厚労省は「2025年度には最大で65万人の献血者が不足する」との試算を公表している。現時点での大きな課題は輸血用の血液製剤を使用する人の85%が50歳以上で

あるのに対して、献血する人の70%は50歳未満という点である。

◆血液は長期保存ができない◆

定期的な献血が必要な理由とは？

血液は医療技術が進歩した今でも人工的に造ることができず、長期保存もできません。輸血用血液製剤のうち、例えば、血小板製剤の有効期間は採血日を含めて4日間、赤血球製剤は採血日を含めて28日間しかありません。また、1人の方が1年間に献血できる回数や量には限りがあります。

そのため、医療機関へ安定的に輸血用血液製剤をお届けするためには、1年を通じて一時期に偏ることなく、献血にご協力いただく必要があります。このような事情から、定期的な献血をお願いしています。

日本国内では、少子高齢化の影響により、主に輸血を必要とする高齢者層が増加しています。

一方で若い世代での献血が減少しており、特に 10～30 代の協力者数がこの 10 年間で約 31%減少しています。少子高齢化がますます進んでいくと、血液の安定供給に支障をきたす恐れがあります。

― 血液が足りなくなるとどうなるのか？

日本国内では、少子高齢化の影響により、主に輸血を必要とする高齢者層が増加しています。一方で若い世代での献血が減少しており、特に10～30代の協力者数がこの10年間で約31%減少しています。少子高齢化がますます進んでいくと、血液の安定供給に支障をきたす恐れがあります。

出席報告	総数	出席	MU前	MU後	欠席	出席率
第1649回	22	17	1	-	4	81.8
第1647回	21	16	1	0	4	81

ニコニコBOX	本日 2,000円	累計 305,000円
	本年度目標額1,200,000円	達成率25.4%

※今週のメークアップ　大貫さん
※先々週の後メークアップ　なし

事務局：東京都日野市神明4-22-13スペースブロンコ1F 〒191-0016 TEL 042-583-6434　FAX 042-583-6435　例会場：飛火野RC事務局
会　長:結城 祐純　　幹　事:谷　和彦　　副会長:仙波 秀夫　　クラブ広報委員会委員長:藤野 益夫

企画制作（株）アド・スクリーンサービス ☎042-586-1378